

崑山集
五

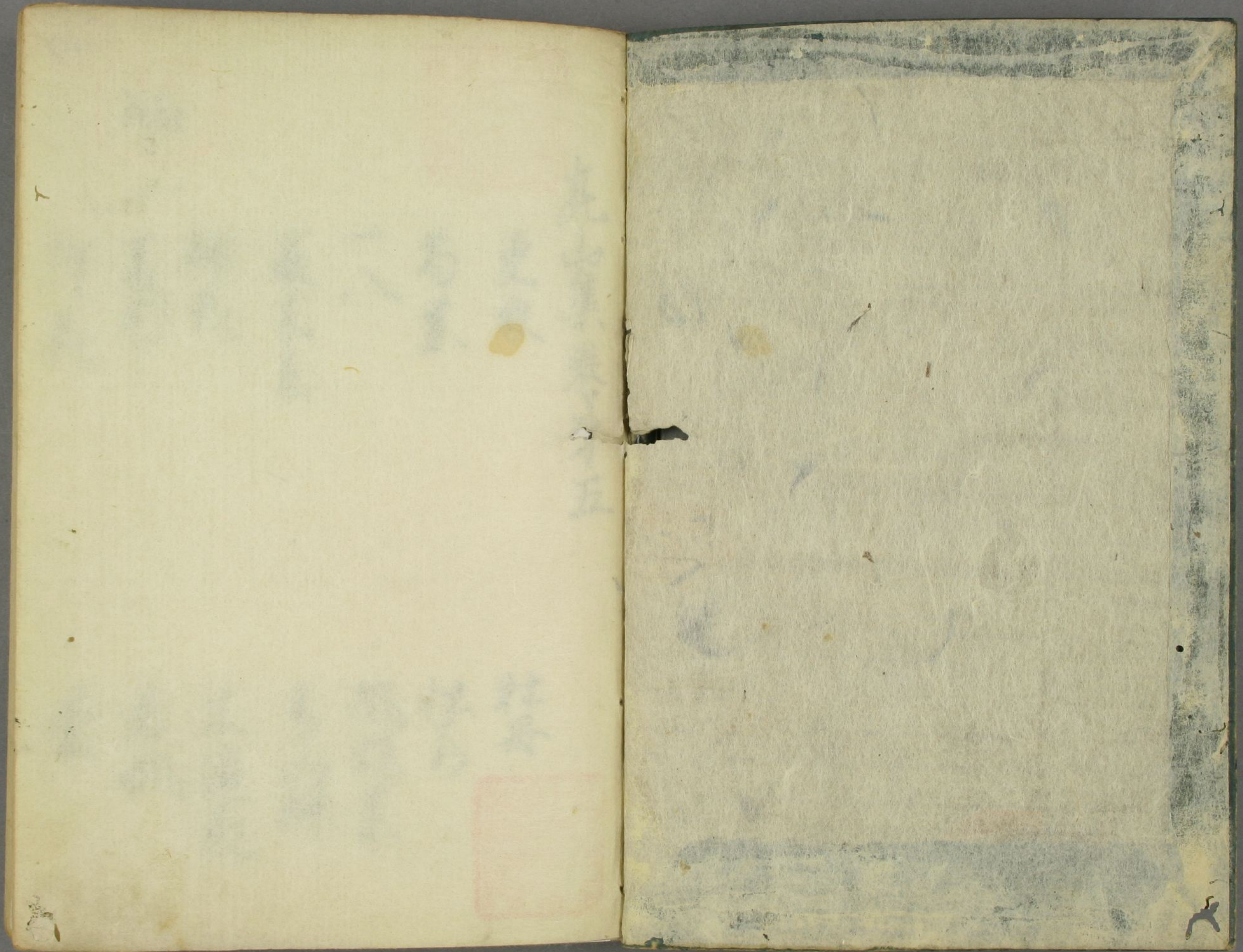
特別

~5

1979

5





5
1979

5
1979
1534
5

元利 1534



亮山集卷中五

更衣
为菜
一八
夏末意
除花
菱花
灯花

牡丹
杜若
凤烟菜
青山林
木莲花
若枫
葵



賀茂系

郭公

牧

定梨

継花

螢

白ん侍

夏菊

嵐山集卷中五

更衣

まよもあま季もあまやまに衣人

遊着

身とちみうらもや昔の衣人
履ゆくやわこけ乃くあも人
夏まきそや一敷かんきうら衣
まよもあま季もあまやまに衣人

何となくふんてんをるまに
妻と夏と季久人母なりを
為ませよ方金とんと秋の
妻と夏と季久人の交
ゆきとこれい妻と夏とのま
秋久人母なりを
これとこれと
解家やそのま

知是
政次
良保
物之
之賢
昔也

弁わらせたたまへる
春乃別るけむく
妻の大楊布の
花身之風わり
此の袖とあり
作保の妹の
之官なる女
よりてハ片く

不存
之信
時之
力具
感次
主丸
後平
玄哉

公吉池信水

花母の道徳のよきおん衆人
貴女のこのまゝうゝおん衆人
まこと其とほきおん衆人
みことわらうまゝの衆人
焼くひえうゝおん衆人

舎徳

一為

月

西伯

良徳

出世のよきおん衆人
おん衆人

長徳

内

牡丹

是れ牡丹の花の盛るか
獅子舞もせよ牡丹の花
名所理のよき月くの花
おん衆人のまゝおん衆人
みことわらうまゝの衆人
御意のよきおん衆人
牡丹花よけむの胡蝶もまゝ

猶ほきけ牡丹母うらうの目
ちくと咲花ハ嵐のころの草
あつ母はまろ文珠の智あや
い穿と花ハ志けりひる牡丹
花の王まろハ垣乃じけり
獅子母牡丹々々の王や花の
八份ハ胡蝶とまませる花の王

一角
後次
わお

山王ハまろ盛れ牡丹と

花の王や舞くあも十世
あは母あハ海世ハ花の王
雨の足て踏ハ子凌つる花の王
九重ハ垣乃とまろの王
長き宮母あハ牡丹花の王
あハ又花火ハ牡丹の如
あハり花ハ獅子に牡丹
花ハ成牡丹や富きとん

貞室
か
時之
あ
吹白
位
元
ま

花又とくりよつらきて母をさし
 猫の目つくる牡丹乃落れたる
 花身此みまへハ志らんやん那
 世をやんて者けし世のつらさ
 ちりりり信也まらちる此を
 其のちよふはあふ小蝶や糸を珠
 やつつくはふとまふらんあ
 気家母よ何せを花やまのう
 花籠よもまを海士小舟らんあ
 ありらんや花と糸と此のあ
 神垣の花やわまさをらんあ
 ちよのあまきひつとるしよらん
 出さぬ此獅子や牡丹のらんあ
 わの蝶やあ母もみら富貴草
 花の王とちやあをらん富貴草
 あやめハうらんあを富貴草

儀信
 重兵
 一重
 文部
 風武
 保文
 保文
 良保
 吉信
 吉信
 耕之
 信成
 信成
 信成
 信成
 後次

神農のちめぬつや言まな
たぐわちやをぬのちん王昌黎
花壇をささひらるる花
書意の猫の批ん少き草
猫乃こらひぬれいそけたるま
ちゆくさくといえん牡丹の白ひ

芍薬

花のつらん天女ののほ

てりしちもろり志をくなくれ
芍薬や根よりを花いさの業
掃地せよふ志をくなくれ花白
芍薬母のひい浩氣の花のを
花意ふ人は誰をさ
芍薬のむいふらのの知り式
花乃をとも月しけてなる芍薬
きりさふふ力とぬたをなく

貞臣

不存

西宮

政信

七代花

月

上徳

良辰

林麻

梅よりわらわへてくれば花の香
為素のほかにいかに盛りか
さくをといもりきや気志
花母海より方角あるに
瓶治やよ為素と生え玉

盛原
重宗
長次
良和

花の款や凡らん為素瓶治の
けり母

一心

一八
九重やふ一八乃花きり
流花裡り一八冪を花のひも

未得

浄去奇ま

一八の咲や九ふれ浄去奇

未就

杜若

我とあめとまきうー
水のさみくや争らむ息よ
わそこ家花やむさ此杜若

よき仲母うくをみるも杜の
浜のやまの如くつらうかよこれ
花と今時の角もやせらるるこ
ぬふりあまのゆふや小池の杜の
暑き日のみうらふ汗や杜の
うらふやよせは葉のかさあつこ
扇もや折る此あまのきつこ
うかよ花なはるれを洗をさす

赤萱

政信

貞吉

重宗

良保

伊人

春浩

ゆき

後身と三河は楊やあつこ
民戸のねあ母出とや垢と
あまもあまのむむの流を
むしはきれ花魁やうまつこ
はるの寝面―たうかたうらな
ひー男あれも意なるは花
そつまははるのこつかよ花
じまおんやてんかうかあつこ

名煙じやみりよきうかよ花
 極ハうのうつとまて毒を杖の
 さうり母のうつとまてけかまう
 東路やみちくさるるなるを
 花を今空巾おそか東のつ
 杖のみろやめういもハつるこ
 花のよちもけえは茶うまう
 大内やふあわりのをみる
 主櫃
 政泰
 忠佐
 春首
 係太
 同
 親を
 七流

風爐茶

風爐の炭もこの茶焼や重
 大海とれまかと風爐に茶入式
 一氣

山湯まで茶の湯

風爐に掛茶とせいる杖の
 抄やうそ風爐母をまて沈田
 宗後
 有母

新茶付其切

其切の壺乃りや連華と

三伏の多切わやー大葉つ不
善一文字燕文字と多し新葉
多好む新葉いむーおとあふ

政信
友宣

夏木立

ひらぬとさわぬか家の夏木立
夏咲や実移らる苗花あり
夜けくたつ重し葉や散花
午白新葉す六朱さや夏木立

むらさきとまといさる夏木立
月の貝木下屋をみりら
雲や川木を葉ハ新葉葉靡
あやるといと葉ら木す忍水
夏木立ハ小枝もわゆるさす也
二刀もやさし候母あつ夏木立
金虫たる地国費つ夏木立
あさきあらしよ志けとい志ん説

之忠
助者
重貞
孝宗

大森と云ふらんとは木の志けに
 表さるる其さく者なりし
 人凡の類やまら葉れ梯の
 なるせとさぬ大原木の志き物
 垂流も樹の影を新樹うか
 夏とて森も三木れ種り式
 紫う花の回も物の友木をそら
 名所ゆふ木の下の園やとくあ
 針の木れ種りや杉乃高
 かきき花みじやく花のい草
 云此葉も志けき一頃此箱
 木の下れ園はくつ利木の種り式
 少一原の樹をそら種り式
 鶏冠井良徳新宅の舎
 定家うらまひ桐の種り式
 百人一首藤天の座もて

保友

重和

山崎

政家

三長

高島

三秋

重紀

則康

元信

利政

方成

吾云

長頼

尚座

云の葉は志ありハ定家うつら
きうあまはゆきの日まー

九月

喜山株

内るぬ木かーあまや喜山
むせくめとゆきゆらら喜山株
かされても花るる同喜山株
況備ふれとみろめそ喜山椒

卜傳
友重
長明
長保丸

餘花

卯月母も心の花やさき月
積善は余花やあらん家極
ま極は友の目もやあらら
風よりも花とちほく月か
花抄の卯月やらの同月
奥美のや夏れ目てんれま

保友
正茂
玄壽
定之

木蓮花

春とくこゝろをせや西乃木蓮花

梅成

湯の山よそ

ちあくとるめくらそ見くらや木蓮花

保友

羅漢樹おまじつて暖や木蓮花

宗行

くらちかりそ并きよ時の木蓮花

祐良

花一と名ちをうりくまじん哉

お初

連歌や指や新式ましくまじんを

勝者

白ひとちかく花のわらん木蓮花

宗成

菱花

はらかけします田北池の菱花

女室

さいえひと気そふねさ菱花

正次

若楓

春色をちや夏ちりねるをわ楓

ゆづ肌とさるや卯月の何々楓

吹風丹をたうや久正も若楓

秋の色をせんけしるへ柳ハナ花

未始

勝結

かぐんもろもふ舎のりか
聚ひあもや伐れ集のわ
青糸わんをそふもて
新田川や津岸母人く山の東

飛久
一室
一信

卯花

盛りそく横とてと卯花

或寺也

卯花とわくころあわ三景

卯花の比いらうさひや
あつむよわ子世寅卯花
卯花の鏡もそふや友本
卯乃也此垣も鏡のし一縄目
急なふ岫やうの穴一
甲少そみ家卯の花や新町ら
うの末此折句
卯月まら季の先後のら

正
一
一

香折つおれ花垣のよこ此竹

ちり此の卯花垣やゆひ志くを

時を知らぬ卯花富士垣り

ゆとき枝に右敷れをちり川う木

箱根山や卯の花折く此を是

卯花やなまかんまろ君の色

とろあまは明らちくふを

花母面いおり箱根知れ

御佛も卯花小神の生る

なぬまふいさうら出く君親

花も志流波の敷れ川う木

おれ後藤の卯花をかま

富士巻の時志ぬ巻此山卯木

卯の花れあどと波ぬ巻

灌佛母花を

つこけやうむおれ花の色

未始

定之

月

伊人

貞好

玄樞

永春

の久

苗忠

宗利

時長

直政

定之

悦春

長以九

月ヶけやゆひ付てとく卯鉢
卯の花へ志うから夏此月うら
中母わく何る白妙の卯本成
卯花に越後うとまはり成
雷月花一交母みくら卯本成
同 同 同 月 月

葵

物の穿つてこび葵はう人志と
母花指脇ういあひうま

花子わさき女や地の氣葵
糸
糸乃河津の紐うと糸葵
さしとき母みくら物
元膳 若比

糸

散錢とより此日るれ能聖夜糸
瑞踏やほくぬまうと此津散錢
糸人のあはれいお玉甲うりうか
賀茂の只糸ととまさとそ糸
あ之 交之 政信 同

今宮ハ御極ヘさうとまうと

日

敷珠やまろの男とさよの海福

巻

三珠の神系とてわ川さう家

流

鍋炭や眉丹はくまの神系

令巾

山崎のひれさういふや油つさ

欠膳

継花

花ちよは西ハきよくするま

政重

おとせわらひさけつれま

笑種

おぬ花を守護せよのまらひ笑

お社

郭云

まうとてそ只と一巻よお説

佛檀丹をそん今けい海は

卯月来く神と母媽や河を

いさく水鶏よお人かま

名系せは氏やさうらふ郭云

竹の子の親まのさりちり郭云
さるらみ起やわけふ子親
うまのやみ鳴くハ絲あるの時
教るささら子にきつれ郭云
郭云ふまも崩とさる絲郭
奥の母さんせい志さのわらふん
一ふふとやわいふん郭云
新身みきせん物りわらす
名ふまは名字もそんよ時
ひよといはさりやさる子親
まのまう一虹わら定れ郭云
名のれまを坂の身の時
宗神ハ何のやまそかふん
涅槃像るれよみまや子親
子親るハより一系とめりか
皆乃代りくは日つけ郭云

る川をえいの子母と改つてうを時を
何とまきうん伽羅の物者と子規
まのつとたり柳をいふとくこま
地獄耳母落うてくるけ部云
天乃戸や夜半ふれしく子規
耳のひくわ川をうまや部云
田方うたふ事似たりう海をうた
とあつたは田方子とりの事なうた
なれぬい下の子規あまう子規
行人と行人のあまることや時を
よれし家此十二夜はるけ時を
し急まぬわかのう終まぬこ子規
あひよこ心解中完の部云
又書よく時をういふ人なりん
あつた子るう終まぬわうまき次
あつた母やうまういふうあつた

と録る所情志をくすむし子規

牡鶴松といふまをみく

名母もいふとさうな松本河原

さうといふ文字のその字の子規

そと勢うの一座一句のなとまん

意といふ一宗方の海にまん

たさうけよ九夏三少く郭云

耳のこもて鳴敗母智人子規

出合がとまよ勢うおれよん

るけやるまわりのさあこ建樹る

なうそ名わきうとら山の郭云

卵花母鳴やまゝ知う郭云

あ耳母一こ急いひ建樹る

三公よう一勢うれよん

せせんとてまよとひ鳴郭云

考此法よりの子をなすは
梅の西母まつとまひせよ郭云
鳳凰の初うの光るり不_レ次
子親日の世とるくハ初_レ寝_レ
かどまんと解さ出_レま_レ山_レ染_レ
始_レより程とま_レれ_レとの考_レハ
実_レと_レや_レふ_レの_レわ_レや_レ郭_レ云
初_レ考_レ此_レ竹_レ塚_レも_レく_レや_レ郭_レ云
思_レえ_レも_レ物_レと_レふ_レよ_レ郭_レ云
夏_レや_レけ_レと_レり_レ沙_レ治_レ斗_レ郭_レ云
け_レと_レひ_レハ_レ無_レ言_レ此_レ初_レの_レ不_レた_レん
月_レ代_レの_レま_レと_レや_レふ_レ家_レ子_レ親
考_レ此_レ考_レの_レ初_レと_レり_レの_レ初_レと_レま_レん
大_レ名_レも_レ大_レ耳_レハ_レせ_レ一_レ郭_レ云
考_レ母_レ初_レ一_レけ_レい_レま_レの_レ初_レと_レま_レん_時
名_レハ_レ初_レの_レ考_レハ_レ初_レの_レ初_レと_レま_レん_時

一丁急るさげの器科郭云
喜とえしよ人市も立時為
ややいふうこの元身子親
小指て支智やたふむ時為
地獄とえおるやとそ山形と云

季吟

初存や唯我獨吟可云
羨感つる智也しくそく郭云

宗時

良和

每橋町と云

每橋く名系家いほのよ時為
あり初や一心不亂可云
そりつるの故字と活系郭云
有時のつましくおるまも子親
初高さうん借正の者比郭云

利政

お明

同

宗系

同

けりては母けりて郭云 政次
 郭云まきくや病をりん考子 月
 わまゝなるの森れりてん 笑あ
 るとほぬうるひとの名は子親 未得
 村雨母名を事時を江戸の浦 政信
 子親を喜ハ身のおるこり 月
 子枕のいちや約よの郭云 毎廻
 なまき不動本を母けりて時を 者行

一せいのほろとていの人郭云 貞利

清和寺

帰青い山程ひきせりてん 月
 継りるせそ知るとまら考の時 加太
 奥耳母さくや深山の郭云 定時
 さうや程くほいそよめを時を 膳能
 常母子親の時をそ人の
 父母来つてまらふおろし

あつさりけし

あぬねさきとらとさきあひ

同

天母啼て地人とさせよ郭云

業心

いふ道くるまふとせぬや時

同

一せんいさや一のてら郭云

定房

母知ひおや不そんけ香子規

正知

親る一とら久里鳴郭云

吉治

あつれぬか中さけよ時鳥

丁廣

夏母留て安金言そかとり

富安

夜啼せよとら森との子規

康耳

中さやちぬけら郭云

重玄

中さよかくふらそり時鳥

同

本尊八十二神も対比鳥

良保

命ふぬそ佐敷の中山時鳥

同

口中あぬるくい起るまふそは

重徳

ちのさよとらちき丹の子規

正玄

郭云きくひくくくくくく

勝之

ふききききききききき

言次

一考ハ記クハクハクハク

他世知

繪ハケキキキキキキキ

後次

云々ハケキキキキキキ

松尾

類々云々云々云々云々

忠昌

禄寺まで

此の声ハハハハハハハハ

永吉

ありそくやううううう

定利

鶴亀や一夜ハきんけん

如權

富士ハきんけんハハハ

安助

勢やとととととととと

助吉

響りそくやううううう

月

一書やそ二亦三三三三

道長

宇治まで

郭云云云云云云云云

日

醜シウ母ハハくク同トウ友ユウ智チやヤ延エン壽シウ武ブ 月
 射セ子シ此コノ奥ウラハハ久クふフまマちチをヲ逢アヒ子シ規キ 月
 奇キ母ハハ今イマ行ユク登トビ人ヒトをヲ得トクそノまマにニ 益エキ
 短ミヅカシ款クワンをヲわカくク冠クワンくクまマつツ登トビ郭クワク云ク 威イ庸ユウ
 昔コノやヤ少シウとト川ケンのノ母ハハハハ不フ必ヒツ也ヤ 月
 智チとト射セとトわカれレ後コノ音オンのノ時トキ也ヤ 友ユウ我ガ
 鳴ネもモ不フ必ヒツ改カヒ字ジをヲ不フ定テイをヲ時トキ也ヤ 乞キ房フウ
 現ゲン豎ジュ和ワ理リとト考コウ母ハハ字ジたタまマ子シ規キ 正テイ忠チュウ
 例レイ有ユウくク此コノ化カ一イツ人ニンくク
 笑シウしシ侍シ也ヤとト云クれレ也ヤ

掛ケよヨ初ハジメんン存ゾン命メイふフちチよヨまマ子シ規キ 月
 急キウのノわカのノ級キウやヤ樓ロウ不フくクまマとト 保ホウ友ユウ
 六ロク弥ミ石シヤクのノ名ナけケるル畏オソ色シキのノ郭クワク云ク 月
 亦オクぬヌ此コノ四シ字ジ上ジョウ下ゲ略リョクをヲ郭クワク云ク 一イツ液エキ
 智チをヲ松マツのノ山ヤマ脚ケツ一イツをヲ射セ子シ規キ 月
 子シ規キとトいイくク本ホン玉ギョクやヤ法ホフとト云クんン 貴キ

舟の花をさし舟なるけり
るけ其れ花をさすまのそ子規
喜まぬい破き右鼓うほり
あり元有ふまのやかとんて補
いとこる名知とまきうはる郭云
郭云長るれとすは法も式
うる舟ゆるけやいろは南多
声のわたりかき此表を子規

歳
良也
正
朔
元
成
心
勝
貞
宣

人傳ゆ南多と云冠也

郭云まきく漫量花のそり
天母はとりふやそし井此南多
回合てわがとにそる郭云
舟そりけよ南多を此表の子規

乃保
正知
酒香
貞好

大佛也

啼て久安の耳塚を
まきつるも長母りやまぬ子規

奇榮
雪香

少くもき里て孫のや時多
万病母きん湯の山郭云
友之 重記

宇治云

名のりよえうらより由きん親
信昌

下き勢うといふや其のく時多
信永

有身親世き勢うやれむ子親
元貞

一と久や後母さんより郭云
長生

高知て高知松山をてん
信元

ひくとすうと久やほ尼郭云
夕暮

かそんくけよ志わら母わそこ親
月

郭云一わら父やその人より
月

美寺や屋せふ傍あふ時のを
月

一果わけ箱根山なくきと
惣

中きかけよ釘とりの本母時多
孝祐

口はく人をせ升母るげや子親
一歩

梅母きつと勢うせよ不れたん
重治

去とくうのけりやほらまきとまの
郭云約子ゆわや氣短夜先
きくやうふうわき計の子規
孫をいせえ津の宿よ郭云
海母舅山北秋鳴や不たすん
い初りおきまきくれたおまうら
初の農や紫子の比乃郭云衣
雉乃たわうらひ所れ子母子規
良次 昌休 五元 季海 あ弱 正伯 月 主和

出家なうとてまら久ま東き郭云乙元子
ま北山ふかやわらとさよとん袋 三也
不たえけとらんまむや時の香 月
けくらたすくまきとや修ぬいしら色 良徳
在専ふいとうとうかや郭云 永吉
鎌倉や屋のさになく子規 主和
孫えつよとほとわとさひ謎式 良和
逢坂た鳴よわととさ秋祭程 玄檀

刈久くるるそそ志志海海鳥鳥郭郭云 倉倉

奥列松嶋の孫奇孫奇云

和尙御不御不聲聲云

深深海海の鳴鳴ウウ一一息息不不言言云 一入

其其外外三三志志母母啼啼智智云 監

重重白白にに安安ろろ一一ゆゆるる也也郭郭云 長長九

弁弁花花とと世世間間ととるるけけ付付るる 同

志志ややつつ又又つつももつつりりをを付付るる 月

子子親親山山とと志志前前のの子子もも云 月

智智也也志志くく也也志志ももんん秋秋とと智智云 月

友友らら成成らら物物とと志志らら付付るる 月

介介之之推推入入心心志志ぬぬ云云とと志志 同

いい其其下下心心のの菜菜ウウほほとと志志 同

句句とと志志ららととるるけけとと思思ふふ云云とと志志 同

智智のの中中れれ王王とと志志并并のの子子親親 同

其の目よきしきて久よ其の
宇治川を先祖と名付其部

同 同

子規をそれをも雄鶴と今

同

月舟勢せし空印是子規

同

系みとりかゝらふはるまきを

同

位者のきしはまきまの子規

同

えろふぬい見世并り夜郭と

同

取まけ耳のあつ月子規

同

変くや名方名高かきよみ

同

今月あうとき付とぬ方此

同

りくくをいえをいし月人の子規

同

奇志き母志のとりんる地

同

郭と鳴ころくする名りの如

同

子規考ひしかど月夜式

同

変くま耳の卯月を子規

同

寒王ときくの中とつらん時を

鯨口やと川坂中の海と時

月 月

多能たらん人の国は母

方地乃勢れ名とりそ子親

時鳥もそのそ名つけそよ

月 月

およ今駈代乃やま郭云

葉るそそ勢せぬい此を時鳥

郭云と人ひらぬ母念と

月 月 月 月

先といく不如歸とる老子親

月

又たわ流石の奥儀子親

月

本奇母云

秘密とら却や去言時鳥

月

背らると輝とれり子親

月

郭云りんるふとる志りく此國

月

をい母入やうの三林変郭云

月

京母す人の数るけ子親

月

<p> 本乃実るそて歳切しる樹を 耳ふみくよ蟬よりさき此子親 本を那け鏡乃細とや時の鳥 又月書日れや耳く部云 早りこそや丹んこの物若子親 弁るそて天此うさせ部云 懐心書ハ世母ちく生そ部云 一珍と能け母部けや内此鳥 </p>	<p> 耳くそく曲宛をさくや内鳥 三珍うあけよ永観堂の部云 月ハ鍼^{ユゲ}等々の弁と鏡此子親 月進わをせるけやくい部云 みせくるく鏡ハカハ付鳥 輝ハと鏡みくくやうる部 そととをく鏡日ハあ子親 </p>
<p> 月 月 同 月 月 月 月 月 月 月 </p>	<p> 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 </p>

泣亦くこひあはるやをまん
 昔を想ふとあんなてゐる人時
 子規無言を子つた日守
 安身のひらりとすらや子規
 手とあふそさうくとる想時
 真感うたわふもあつぬ子規
 日 日 日 日 日

螢

醉をせまくさくみれり螢も

夫布祢川のうな昆火の
 窓乃火の焼着草丹と螢
 せ母ちらる螢の浪の記火代
 芦乃屋の中事かとも螢
 少りく火のあまの螢
 螢火の川乃漱中の炎火那
 水と火の相性をよき螢
 みる物も夜光の玉の螢

螢火とく〜 螢と万と朝る
猿母まけぬ螢の庭はあつた
螢は火屋の少をせん 西の三
火れと〜と刀をらいた名物の螢
螢火と玉のあまればむら
く〜と火も螢も光源氏を
川つ〜ま出らぬ螢火の螢の
を流すの慶姫の玉の死螢
我とわつ火とりとん入螢うか
水母繪とくやきさる死螢
火袋の紙うつ〜 螢系
つまの女母元とまら歌の螢系
螢火のありや也猿乃〜と火
螢火の〜わはめから朝日
ま〜らる庭の猿汗の螢を
我と身とやく〜とるき螢

志も汝は毛母をうらふ螢や尋
 わりと昔いとあふるまかしの螢
 螢火のせうから秋乃多る余
 正そのたる螢よりのやいと
 螢とふ池のぬるそく火るそ
 川あり母火渡しとすり螢
 螢火と焚や荊 鞭ひまの
 傍に女の螢も哥のひりて
 をいりては夏の螢の元より
 螢火の少と知るはしき蚊
 火とつらむ食志は家母に螢
 白波つらむは火てよりの螢
 我とわらのとひきかきと螢
 といつらむ螢ハ鹿母つけひ
 夕とれ母るれと螢の火に
 螢火母なくふもや火打る

波の志は丹榮や火は紅川
 螢火の我と我鹿也也
 火乃袴さうや螢も共アハ
 空舟をらといわら螢也也
 氷草亦火花さうら螢也
 二まこの舟ハ螢の火をく
 火花らうと空舟は螢也
 鹿の火て力なみさうら螢也
 夏草は露や螢の火は玉
 螢火はさうら居る乃わ
 消てたうやうは螢火は
 濃列の内舟とまらて
 火としらや螢乃中を不
 見ら舟は火とわら螢也
 文字をさうら鹿と以の螢
 不山ハ螢のけもさうら

窓より飛りよるあられ火の煙
餓鬼をうて水と火とみる横
ちりとろと螢の闇のうらむ
螢火のきき守るれや五月や
螢籠人や火せりて水せり
坪の内へ入や螢もひらやう

去人の母の追善母

友三

此
母死
に
て

螢たふ消し何とせん此うを

曰

螢火や宇治の橋姫へよひ	水也
力とともと螢やつらんさ姫小松	海成
宇治橋の仇母火とともと螢水	乃長
日と入くひうかとも星ハ葉式	定元
水の月と螢やうらむ鹿と夏	正泰
ちとろとろくろの螢火つけ	宗浩
虫たふ鹿のひけよきと螢水	友三
重れよ母つこふ螢やを好	良保

火の二河をあらや炎ホノラ堂此字
水母まきまきく火とかなる神也

川ち志々の救法を此火の鏡

神のてらるる火の堂のひる多式

くも水母うけふ堂の元かき式

小車 とまきまき堂もくまひ式

光りあふ堂や鹿の穴りしこ

星母をけりていし記るるや光物

及も野よりあまてやる堂の

人々こんり堂の志り此火式

三男と出ぬいかなる此火宅のま

いなり山の堂のまのまの火

文司此実とともて教字のま

質茂母くいのひ火とらん

死堂をこれ上まてやいぬの時

宇治津田の堂母射の火を式

友勝

良和

如心

良和

友勝

玄方

盛庸

重和

正知

掛也

正傳

正行

友宣

一入

英保

正成

死生照車の玉の車百合	文字の多火とつてくは煙	統いてもあはれ火てるまき煙	ほせし神も螢の鹿むひまきあ	是もやくふはつ武松野よ飛	火ととらハ中やわし人母死螢	志をとりふあつ螢も焼終死火	とえあつハ竹のまらひの煙	狐火と人見るも好みの螢	浪の祀も死入とるる螢	ちり針もあつ螢もととから	月の舟もたはれくみぬ螢	月とのわもと螢もあ人まき園	螢火と月さまこころは光り	西の舟もあつ螢もくふれ鹿	ふ家くととら螢も火の車
考安	助善	日	志好	重正	忠幸	定房	久待	ト依	定重	えん	三重	名礼	加友	貞次	正茂

名苗母をかく秀乳螢の卵

川結りこぢら螢の庭中

鏡念母光乳螢や星月夜

水母うらぶ乳の螢のひよ

志小乳螢へん母やい火那

小車母螢の火をとりけら

月入るほら螢乃日まらる

宇治と概由てみる螢火や離中

火と虫とやさん宇治の螢火

見ふ人のやう、火乃出ら螢火

月と火れあふらんも落さ螢火

月弓や伊とあらしき螢火

夕立母ひらる螢小鹿那

螢火の書たと御くうまんの

字文の忘母ひらる御くうま

と母それら火をうまんま

日

貞院

安道

乳不

海一

心重

一井

昌香

宗孝

孝庸

正次

海成

安部

寸川

系益

保友

心をこめてあらはに侍候共若くは
奥の夜乃錦母まうと螢の
たのひも蒲の螢此火より
るは三に花ゆいとも螢の火より
有明やはまきよくこまやと螢の
表光くわありの切まみ花螢

庭の虫と云題りて

いそぐみ一そく花のほくら
てん火とりよやを事と
鉄仙母よふ螢火やを灯簾
水母螢夏も乃のひ乃ら
秋の螢蝶のぬまにらわ

奥列りて

昔ひのやひもむらと死螢
螢火の花簾とるまに
伊ちるやまこまやひくは母死螢

黄隆

重助

正在

行外

長久

如獲

重光

元親

保赤

俊屋

時元

日

政次

正宿

二川つぎ花—螢をひくく式
 を懐くとみまの螢のひ懐く如
 久殊志りの知恵は光や花
 縮光と伊らん田中の世螢を
 水のつら川み光あつる螢を
 入相乃くをる螢は火打る
 隻とりんを教まん螢のひ懐
 地籠めを目とひうらむら雲
 夜よりとれ火の川の川は煙
 螢火も消ぬを水のを草か
 みき身に鹿かくや螢は
 涼せ教かひくかもくまは
 螢をひくかやとらうの磔
 火をとれと螢の鹿や志まら
 九義長々竹丹螢は火のひ
 電光のふ火と岩る花螢

祐心 領玄 重佳 秋次 海永 三秋 幸忠 雪似 重慶 梅盛 秋意 定黒 重治 易定 至宗 成利

江戸道二河と云々

虫のその火や二河母と云々

徳元

急流水々々々てい花母と云々

安政

勢うるやうく母と云々

重利

死螢火とほ毛竹の煙と云々

政也

玉しを光母と云々

長隆

夏虫母火と云々

月

箱又三田中の中の螢と云々

日

秋火と云々

月

星母と云々

月

非と云々

日

と云々

日

火と云々

月

と云々

日

螢火の殺生と云々

日

螢火のあつと云々

日

不らりの如曆の外此夫大地火 日

くらぬ蒲や火るはとるせり 日

螢やとも炭火の夜の正とひり 日

二条河内た近家やけり 日

一 せ日東清門迄を 日

二条坊政殿の作をかう 日

かりて 日

あふ事とるまの螢の火る 日

ゆり鹿のみぬ螢やとる 日

よりの星や螢くやより 日

焼明の併のころふとふり 日

乃む款のひら酒乃は 日

那波にき螢たけりあ 日

百草の黒焼とけり野の螢 日

夏をどくり批焼の今宵死螢 日

ぬとくるとなると高蒲丹死 日

山寺や学文志や母の螢 日
 闇の迷途めく乳堂や火草 日
 かゝるまきし星とやいそん田の 日
 明星のりくらをゆら螢 日
 西下り螢雅のあみさの光式 日

蚊

蚊櫃やあがり母のる蜘蛛 蚊
 蚊を火の忘流まこと蚊と煙 蚊
 名を蚊三母母のる時の蚊帳 蚊
 蜘蛛のる糸はほりそつ蚊帳系 蚊
 蚊乃く久の闇ゆら志らやう回坊 蚊
 蚊を蚊此目やうく庭や櫃互 蚊
 夕丹の死してまを蚊うら其長の 蚊
 蚊のちうとかこるり母皮紙帳 蚊
 父くをたうくふの蚊食う部 蚊

こゝろりれこゝろ家も虫蚊は
 寐入花の園や菖蒲の蚊
 う多移や蚊母をくくく
 そのこゝろやせつそそ
 蚊をくくをけつそそ
 子そそ寐る蚊母の布袋の袋
 蚊を火と坊主此枕香炉くま
 蚊柱とよの餅はく子
 蚊柱の我とせつそそ
 蚊柱をみう子とけく
 蜘蛛の巣の子とけく
 蚊乃考ハク^加とらん
 新川く月とるきみ
 地水火風今蚊の世
 蚊柱やま付母せん

三永 身次 身忠 不休 言次 正次 則重 若翁 一瀉 尚詳 掛也

政柱をたしきしや蜘蛛家

政信

煙るるまはりのをえさのうや

定房

其れ夜ハ血とい蚊今れ云神

元晴

と子母似ぬを世といなせ蚊

英茂

よひく母縫て我神ん蚊怯る

政真

喰はくを母ら蚊をいひまは

兼成

蚊柱や板あり友門を修らる

貞宣

蚊の餅をほくハ蜘蛛の夜食

久翁

糸入花ちら蚊柱や家ころ

安邦

三つう船の中母あり蚊屋は生

有紀

まんぬむらり事るくハ之思

盛能

其乃表れ蚊ハちをこぬ國は

易延

蚊帳をまきさるま基のつら

三澄

大道母蚊るよくくむとる

元辰

少く入てハうけ蚊一其れ煙

重吉

よりの蚊をたしきしや蜘蛛

香盛

はるあゆみのこころまじやうの形端

長久丸

不殺生戒と

乃三教ともくまなく殺を我心

丸

はるうわの四面丹枕方此起也

同

一度三升寺あつくたむし

ろきと紙巴の汚物清とを

と実一車と思ひ出く

にありや母御の正なるをうたふ

同

はるは世の徳子実るく

て余情の事と宗祇の

もといふ事かれえそれ

と古事丹羽ひ侍ら

灌佛

く自ん佛の衆生ととくは

不存

感ふいも自る佛の生湯ハ

命巾

三身のたうを卯月い日か

長久丸

岩梨

木村三三と志梨をてや服也

政信

复菊

复菊也木村下園の星月夜

政矩

冬と秋言也三ゆり此蒜草

舟菜

友菊の四五月咲く九月成

政之

長葉此園に流とるものと

之留

麻母あつこゆり

友菊のあつこ

長麻の上母りけあつこ

七環丸

复菊やより川の花乃中

曰

